

石川県白山地域の低地で冬期に発見されたイワヒバリ

上 馬 康 生 石川県白山自然保護センター

NOTES OF ALPINE ACCENTOR (*PRUNELLA COLLARIS*) DURING WINTER SEASON IN HAKUSAN AREA, ISHIKAWA PREFECTURE

Yasuo UEUMA, *Hakusan Nature Conservation Center, Ishikawa*

はじめに

イワヒバリは、白山では標高約2,000m以上の亜高山帯の一部と高山帯で繁殖していることが分かっている (Nakamura & Ueuma 1997)。また繁殖地以外の記録としては上馬 (1994, 1997a, 1997b) の報告がある。今回、1999年の1月～2月に、今まで報告されている場所とは、地形的にも標高的にも違う場所で発見されたので報告する。

イワヒバリの発見者である佐々木志保子氏、小川悟氏、および情報をいただき表に名前を出させていただいた方々に、厚く感謝の意を表します。

発見場所と状況

イワヒバリが発見されたのは2か所あり、その一つは石川県吉野谷村木滑、もう一つは同村瀬波である (図)。木滑の例は、1999年1月18日の朝、石川県白山自然保護センター玄関前に、死後あまり時間がたっていないと思われる鳥を職員が発見し、筆者が確認した (表のNo.20)。喉の一部の羽毛が抜けており、玄関ドアのガラスにイワヒバリの羽毛が付着していたことから、衝突死と判断された。発見地の標高は300mで、手取川右岸の高台にあり、周辺はコナラ、クリ等の落葉樹林とスギの植林地で、平坦地に鉄筋コンクリート2階建ての建物や駐車場などがある。当日は積雪が80cmあり、玄関付近の地上の一部は、建物のひさしの下にあたり雪がなく、また建物の壁面のすぐ下も雪のないところがあった。イワヒバリの計測値は、全長155mm、尾長65.2mm、翼長97.6mm、嘴峰長13.4mm、蹠長27.3mm、体重37.8g

であった。

また、同年2月4日、5日に2羽以上の個体が、白山自然保護センターへ通じる車道上 (標高280m) にいるのが発見されている (表のNo.21, 22)。前記の場所との距離は約30mしか離れていない。このときは積雪が150cmで、しかも新雪であり、除雪されたアスファルト舗装の車道以外は、付近では地面が出ているところはなかった。

次に、瀬波の例は同年2月7日と15日で、瀬波集落のはずれの、同じ休耕田の中の雪の消えたところ (標高300m) から飛び立った3～4羽のイワヒバリである (表のNo.23, 24)。発見者の報告では、周囲には積雪があったが、その部分だけ湧き水のために地面が出ていたとのことである。ちなみに、両日の白山自然保護センターでの積雪はそれぞれ120cm, 130cmであった。

考 察

今回の記録を含め、石川県内で繁殖地以外の記録としてあるのは、表のように24例である。これらは、時期的に3つに分けることができる。一つは今回の記録を含む11月～2月の冬期の記録。一つは10月の記録。あと一つは、5月から6月初めの記録である。10月の記録 (No.16, 19) は、場所的には亜高山帯から高山帯で、砂礫地や枯れた疎らな草地のなかである。近くには営巣地はなく、おそらく繁殖地を少し下り、これから越冬地へ向かう直前の記録と推定される。5～6月初めの記録 (No.4～7, 11～15, 18) は、標高的には繁殖地へ向かう直前の記録と考えられる。

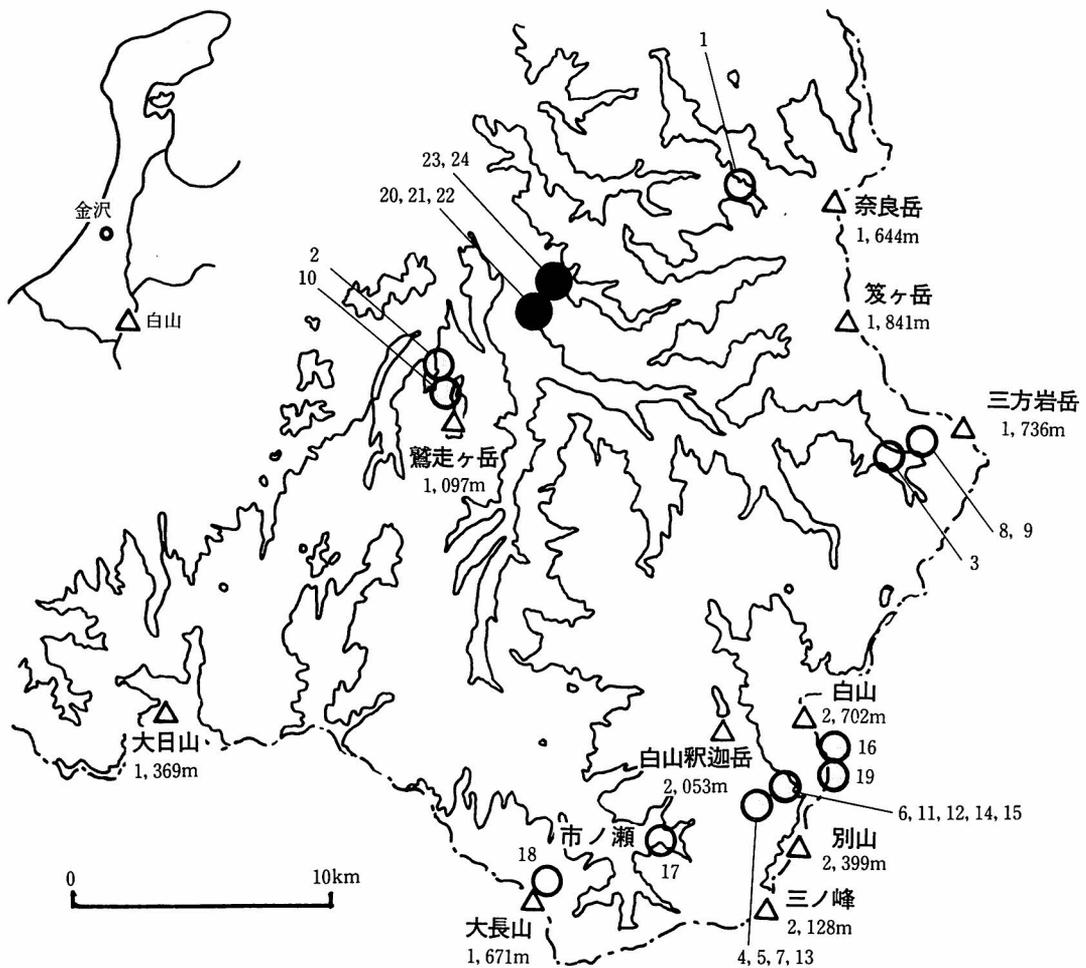


図 白山地域におけるイワヒバリの繁殖地以外での記録 (●今回発見された場所, 数字は表に同じ)

次に冬期の記録であるが、今回の記録(No.20~24)を除くと、上馬(前出)で述べたように、いずれも深い谷の中の急峻な場所で、岩場などがあり、また雪崩の頻発するところで地表が現れやすい場所であるのが共通している。ところが、No.20~24については、地形的には平坦な場所であり、標高的にも他の冬期の記録場所よりはるかに低い点で共通している。なお、No.20~22とNo.23, 24とは直線距離で約500mしか離れていないので、同じ群れの可能性がある。

これらは、1月中旬から2月中旬まで記録が続いていることから、移動中の一時的な記録とは考えにくく、付近を越冬地としていると推定される。そして、地面のあいたところで採餌していたと考えられる。ただし、No.23, 24の場所のすぐ近くには、地形が急峻で雪崩がよく起こる瀬波川が上流へと伸びて

おり、あるいは本来、この瀬波川沿いの急斜面を越冬地としている群れとも考えられる。

イワヒバリの越冬地としては、栃木県足尾、山梨県三坂峠、奈良県吉野などが知られている(Nakamura et al., 1996)が、いずれのところでも急峻な地形の場所で見つかっており、標高も少なくとも500m以上である。今回は、280mという低地で、しかも集落のすぐ近くで見つかっている。一つには、山ろくの集落付近には餌となる草本類の種子が多くあり、昆虫も見つかるからと考えられる。

おわりに

今回見つかったイワヒバリは、夏期にどこの高山に生息していた個体であるかは不明である。すぐ近

表 白山地域におけるイワヒバリの繁殖地以外での記録

No.	年 月 日	場 所	標 高 (m)	環 境	羽数	行 動、他 <記録者>
1	1974. 11. 3	河内村奥池	900	林道 (岩)	1	奈良岳登山口付近<中村正博>
2	1988. 11. 22	鳥越村鷺走谷	530	林道法面 (岩、草地)	9	群れ、採餌<上馬康生>
3	1992. 11. 13	吉野谷村蛇谷	880	林道法面	1	白山林道第4号トンネル付近<中村正博>
4	1994. 5. 10	中飯場~甚之助避難小屋	1,680	雪原、崖地 (岩、土)	4	群れで鳴きながら飛ぶ。崖地へ降りる<上馬康生>
5	1994. 5. 10	中飯場~甚之助避難小屋	1,750	崖地 (岩、土)	5	上空から崖地へ降りる<上馬康生>
6	1994. 5. 10	甚之助避難小屋	1,980	雪原	4	上空を甚之助谷から別当谷へ飛ぶ<上馬康生>
7	1994. 5. 30	中飯場~甚之助避難小屋	1,750~1,800	崖地 (岩、土)	1+	甚之助谷から鳴き声<上馬康生>
8	1994. 11.	吉野谷村蛇谷	1,220	林道法面 (岩、草地)	2	白山林道第11号トンネル付近<中村正博>
9	1994. 11. 22	吉野谷村蛇谷	1,310	林道法面 (岩、草地)	7	白山林道第13号トンネル付近、採餌<上馬康生>
10	1994. 12. 2	鳥越村鷺走谷	580	林道法面 (岩、草地)	5	採餌<上馬康生>
11	1995. 5. 15	中飯場~甚之助避難小屋	1,900	雪原	2	鳴きながら(ジュジュジュ)甚之助谷から別当谷へ飛ぶ<上馬康生>
12	1995. 5. 15	砂防新道、南竜道分岐	2,100	草地 (枯れ)	16	雪の消えたばかりの枯れ草で採餌<上馬康生>
13	1995. 5. 16	甚之助谷	1,850	崖地 (岩、土)	2+	雪のない崖地で鳴いている(キュルリ、キュルリ)<上馬康生>
14	1995. 5. 16	別当谷	1,900	崖地 (岩、土)	2	鳴きながら(ジュジュジュ)追いかける<上馬康生>
15	1995. 6. 5	砂防新道、南竜道分岐	2,100	崖地、草地 (枯れ)	5	さえずり<上馬康生>
16	1995. 10. 4	大白水谷上部	2,350~2,400	砂礫地、草地 (枯れ)	1	鳴き声<上馬康生>
17	1995. 11. 8	市ノ瀬	870	崖地 (岩)、草地	1	別山・市ノ瀬道<稻川 良>
18	1996. 5. 12	大長山	1,500	崖地 (岩)	1	根倉谷上部の岩場で鳴く<梅 典雅>
19	1996. 10. 27	飛騨地獄谷上部	2,200~2,250	草地 (枯れ)	1+	姿、鳴き声、採餌<上馬康生>
20	1999. 1. 18	吉野谷村木滑	300	建築物(鉄筋コンクリート)	1	白山自然保護センター庁舎の玄関、死体<上馬康生>
21	1999. 2. 4	吉野谷村木滑	280	除雪後のアスファルト道路	1+	道路上で採餌。他に不明種が数羽飛ぶ<林 哲>
22	1999. 2. 5	吉野谷村木滑	280	除雪後のアスファルト道路	2	道路上で、逃げない<茨木友男>
23	1999. 2. 7	吉野谷村瀬波	300	休耕田の雪の消えた所	3+	地上から近くの樹上に3~4羽飛ぶ。<小川 悟>
24	1999. 2. 15	吉野谷村瀬波	300	休耕田の雪の消えた所	3+	地上から近くの樹上に3~4羽飛ぶ。<小川 悟>

繁殖期を6月~9月とした。ただし繁殖地での5月、10月の記録があるが、これは除いた。

表中の場所では、繁殖期のイワヒバリの確認はない。No15の場所も、毎回調査しても6月中旬以降確認なし。

くの白山の山頂部であることが考えられるが、中部山岳あたりから来ている可能性もある。それを明らかにするには、白山でも一部行い、乗鞍岳では長年にわたって行われているような標識調査が必要となる。今後も、各地の山麓の集落あるいはその近くで発見される可能性があるが、夏には本州の限られた高山帯に生息し、あまり数の多い鳥ではないので、この鳥の保護については、高山帯の自然のみならずその越冬場所を明らかにする事も重要と考える。

文 献

Nakamura, M., Matsuzaki, Y. & Ootaka, H. (1996) Social Unit of the Alpine Accentor *Prunella collaris* in the Non-breeding Season. Jap. J. Ornithol, 45, 71-82.

Nakamura, M. & Ueuma, Y. (1997) Distribution and Abundance of the Alpine Accentor *Prunella collaris* Breeding in the Hakusan Mountain Range. Annal Report of the Hakusan Nature Conservation Center, 24, 15-21.

上馬康生 (1994) イワヒバリの冬の生息場所. はくさん, 第22巻, 第2号, 7-11.

上馬康生 (1997a) 白山の自然誌17 イワヒバリの生態, 21 pp. 石川県白山自然保護センター.

上馬康生 (1997b) 白山地域のイワヒバリの非繁殖期の生息状況. 平成7年度白山高山帯に生息する小動物と公園利用の共存手法検討調査報告書, 71-76.